

WELLBEING

指導部通信

Date:2026.Jan.29 Vol.30

丸岡南中学校生徒指導部

文責：荒井啓臣

「この挑戦が、誰かの一歩になる」

2月の生活主題 「平和」・・・愛校心を養おう

1 学校生活のルール・マナーを守りましょう

- ・職員室入室時は荷物を下ろし、コートやマフラーなど防寒用具は外し、整頓して置きましょう。
- ・いろいろなT P Oを考えた言葉遣いに留意しましょう。
(人間の言葉使いは、社会性・主体的な意識・内面化を促すものです。言靈です。)
- ・はっきりした返事、はっきりした声で返答しましょう。(目を見て元気よく挨拶を)

●「南中ガイドブック」の意義※丸岡南中学校には校則はありません。この南中ガイドブックは、生徒と教師の話し合いでリメイクを繰り返しているものでできています。

本校のガイドブックは、時代に応じて生徒自身の議論と判断によって更新されてきました。これまでの色規定の撤廃もその一つであり、生徒会は「自由=何でも可」ではなく、学校は社会性を学ぶ場であるという前提を大切にしています。当時から迷いや不安を抱えながらも、生徒たちは判断と責任を引き受けることを選び、「基準は自分ではなく社会にある」と後輩に託しています。この歴史は、社会を基準に考える力を育てることが重要であるということを意味していると我々は考えています。

2 環境の美化に努める

- ・教卓の上や机の中・横に物を放置しないようにしよう。
- ・使わない学習用具等は持ち帰り、H B の整理整頓を心がけましょう。

3 卒業・進級に向けて

- ・感謝の気持ちを行動であらわすようにしましょう。

下校時刻に関するお願ひ

1月15日付 Home & School でお知らせしましたが、リマインドとして記載いたします。本校では、生徒の安全確保および教職員の勤務体制の観点から、完全下校時刻を定め、その時刻までに下校することを基本としております。そのため、保護者の方のご都合により、生徒を長時間学校に留め置くことにつきましては、完全下校時刻までを目安とさせていただいております。何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

■ 「50歳から英語独学。65歳で通訳ガイド——年齢は限界にならない」

先日、Xで話題になっているポストを見ていたら、50歳すぎて独学で英語を勉強し、英検1級と通訳案内士の資格を取った!訳ガイドになった男性に「素晴らしい」「勇気出た」というものが目に飛び込んできました。

この男性は50歳を過ぎてから、彼は英語の勉強を始めたそうです。「今さら何になる」「無理だろう」——そんな声もあったということでしたが…それでも、誰にも言わず、文法書と単語帳は一

冊ずつ。そしてPCとスマホで動画を見ながら、ただ黙々と続けたそうです。途中、英検は何度も落ちた。けれど諦めなかった。ところが、この挑戦の途中、奥様が怪我をして入院する出来事もあったそうです。お見舞いや家事に追われ受験をあきらめかけた彼の背中を押したのは、病室からの奥様の「行ってきなさい」という一言だった。事前準備なしで開き直って挑戦したら、受かったのだそうです。多くの反響の声の中には…今何かに挑戦している人、ためらっている人、あきらめそうになっていた人、様々な立場からあふれんばかりの共感と感謝の声が届いていたそうです。最後にこの反響を受けて彼は、一番の感想は「これでもう資格試験合格や、点数を取るための勉強をしなくてもいい」です。これで英語の初級をやっと卒業したという達成感、これから好きなものを読み、聴き、見られるという解放感、本当に自分のための自由な英語学習が始まるという期待感。あとはもうこれで受験料を払う必要がないという安心感でしょうか。さらに今後の抱負については「日本に来てみて本当に良かった。そういう外国の方々の日本理解の一助となれば幸いです」と話しています。



私はこの話を聞きながら、思わず、頭の下がる思いがしました。そして、人生の在り方の手本を目のあたりに見たような気持ちでした。「人生とは何か?」「人間はいかに生きるべきか?」について、様々な考え方があるでしょうが、私はこの男性のように、「いつまでも夢を描き、それを追い求めてゆく」つまり、人生がいつも青春であるような生き方が、最も理想的な姿だと考えています。なぜならば、夢を描いてそれを実現することは、人間がおこなう創造的な活動の中で最高のものであり、その創造によって味わう喜びはまた、人間に与えられた喜びの中で最高のものであるからです。自分自身の喜びを味わいながら、この世の中に新しいものを生みだすという、これ以上の創造的生き方は他にはないと思います。

大きな夢を描きながら、それを実現して行った人たちの典型は、いわゆる偉人と呼ばれる人たちです。みなさんも偉人の伝記は何冊か読んだことでしょうが、偉人伝とは一口に言えば、それぞれの人が夢を実現した成功物語です。偉人伝は私たち人類が共有する大事な遺産であり、この遺産は後世の人が使って役立てるために存続するものです。それならば私たちは、徹底的にこれを役立てるような読み方をすべきです。

言い換えると、他人ごととして伝記を読むのではなく、自分自身が主人公になったつもりで、繰り返し読むことです。通り一遍の読み方では、その人物の真価は学びとることができません。そればかりでなく、主人公は偉人、自分は凡人、凡人にはとても偉人の真似はできないというような後ろ向きの受け止め方をすると、かえって逆効果になる心配が生まれます。

夢を描くことは、偉人だけに与えられた特権ではありません。それは誰にも与えられた人類平等の権利です。偉人たちはその権利を大きく行使したために、偉人と呼ばれるようになったのです。そして、夢は単なる夢に終わるのではなく、必ず実現することのできる夢です。もし実現しなければ、それは力の出し惜しみといつていよいでしょう。

大きな夢を描いて、それを実現するためには、まず小さい夢を一つ一つ実現することから心掛けていくことです。例えば、起きる時間を毎朝六時に決めて、大自然に接してみるとか、学習計画を立て予定通りに実行していくように、自分の身近なところから、夢となるテーマを見つけて積極的にそれに取り組んでいくことです。この小さい身近な夢を、一つ一つ実現していくと、自信が自信を生んで、夢はだんだん大きく膨らんでいきます。そして、いつか大きな夢をもち、それを実現していくようになります。